

令和7年度 第4回 伊丹市いじめ防止等対策審議会 議事録

日 時 令和8年3月9日(月) 16時00分～17時30分

場 所 伊丹市総合教育センター 2階 研修室

出席者	新井 肇	会長	福本 恭	副会長	安達 絵里	委員
	池田 修一	委員	石崎 和美	委員	市川 伊久雄	委員
	井上 梨絵	委員	高城 裕佳子	委員	田中 典子	委員
	仲野 由季子	委員	花光 潤一	委員	林 明美	委員
	増田 健一	委員	松本 喜美子	委員		
欠席者	山下 晋平	委員	山元 浩司	委員	前田 久美子	委員

開会あいさつ

新井会長

ちょうど熊本や栃木で、SNSに暴力を振るっている動画が拡散されている事案がありました。はやし立てる状態で拡散しているものもあれば、被害者側が知ってもらうために拡散している場合もあり、非常に複雑な状況です。

SNSの中でのいじめ、あるいはSNSを通じた名誉毀損になるような人権侵害行為が起きています。いじめとSNSがすべて直結するわけではありませんが、非常に分かりづらい形で広がっているのが実態です。

その意味で、伊丹市としても、このあたりに目を向けていく必要があると感じています。本日もアンケートの話が出てくると思いますが、ネット上のいじめは数字として上がってきにくい。実態が少ないのか、把握しきれていないのか、検討が必要です。

忌憚のないご意見をいただきながら、今後の施策につなげていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

議事録署名委員の指名

事務局

会議録については、伊丹市審議会等の会議の公開に関する指針第5条により、会長が作成し、出席委員2名が証明することとされています。本日の会議につきましては、高城裕佳子委員、田中典子委員のお二人にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。(異議なし)

会議録は議事の要旨を記載する形で作成いたします。よろしいでしょうか。(了承)

議題1 令和7年度 第2回いじめ実態把握アンケート結果について

事務局説明

事務局(学校教育課・寺井)

令和7年11月に、市内小中学校、私立高等学校、特別支援学校の全児童生徒15,926人を対象にアンケート調査を実施しました。認知されたいじめ件数は、小学校822件、中学校70件、高等学校0件の計892件でした。昨年度同時期は1,045件で、前年度比85%となっています。

今回の調査では、生命または身体の安全が脅かされる重大事態のおそれがあるものは0件でした。現在の状況として、解消しているものは9件(1%)、いじめ行為は止んでいるが解消に向けて取り組み中のものが819件

(91.8%)、いじめ行為をやめるために取り組み中のものが64件(7.2%)です。

質疑応答・意見交換（アンケート結果）

池田委員

アンケートの設問③「軽くぶつかられた」と④「ひどくぶつかられた」の基準について、どのように区別しているのか教えてください。

事務局

文言で判断できるものはそのまま分類し、判断が難しいものは学校と確認しながら(3)(4)に整理しています。ただし、明確な定義づけが十分でない点は課題であり、今後整理していく必要があります。

松本委員

件数が減少していることについて、学校現場から「これは効果があった」という実感は聞いていますか。

事務局

事前啓発や未然防止の取組が一定の成果を上げているという声は聞いています。SNSについても、教員自身の理解が深まり、それを子どもに伝えられるようになったという声がありました。

花光委員

最近、事実関係が最後まで明らかにならないまま、被害訴えだけが残り、不登校につながるケースが増えているように感じます。こうしたケースは集計に含まれていますか。

事務局

一定程度は含まれていますが、アンケート段階では把握しきれないケースもあり、継続的な見取りが必要だと考えています。

新井会長

いじめが原因とされる不登校はデジタル化しにくい。30日未満でも欠席が重なっているケースをどう把握するかは重要な課題です。

石崎委員

パソコンやスマートフォンでの誹謗中傷の中身はどのようなものですか。

事務局

SNSやオンラインゲームのチャット機能などでの仲間外しや暴言が多く、小学校高学年から増えてきます。証拠の有無によって対応が変わりますが、保護者と連携し、必要に応じて警察のサイバー対策窓口につなぐこともあります。

仲野委員

被害者救済だけでなく、加害者になっている子どもの立ち直り支援も重要ではないでしょうか。

新井会長

加害者を作り出していないか、常に立ち止まる必要があります。誰もが被害者・加害者にならないためには、傍観者にならないことが鍵だと思います。

## 議題2 伊丹市いじめ防止フォーラム報告

### 事務局

令和7年12月26日、伊丹市立図書館ことば蔵にていじめ防止フォーラムを開催しました。小学生8名、中学生34名、高校生4名を含む約100名が参加しました。テーマは「SNS等のネット上のいじめの現状と自分たちができること」で、世代を超えた意見交流が行われました。

### 石崎委員

子どもたちから聞く言葉や実態は、大人が全く知らない世界で驚きました。子どもから学ぶことの大切さを感じました。

### 田中委員

子どもたちの前向きで具体的な提案を、今後どう行動に落とししていくかが重要だと思います。

### 前田委員

いじめフォーラムでは未然防止の観点として、学校・家庭・地域でできることが意見としてあった。先生になんでも押し付けるのはよくないと感じている。地域の方にも相談してくれたらいい。

### 松本委員

部活動の地域展開のことでまた何か起こりうる。地域に開いていくチャンスではないか。

### 福本副会長

いじめが起こった場合、他校生同士の場合どこまで学校が入れるかというのは難しい問題。問題が複雑化するだろうという不安がある。中学校の教員の時間が16時以降空く。研修等でいじめのキャッチを学ぶこともできるとは思う。

### 事務局

小学校ではいじめフォーラムの内容を全校生に発表、中学校では同じテーマで学校でフォーラムを行った。

## 議題3 いじめアンケート改定について

### 事務局

ネット上のいじめが拾いきれていないという子どもの意見を踏まえ、設問の見直しを提案しました。

### 市川委員

大人に見られたくない、特定されてしまうなど、アンケートを書くことの弊害があるように見えた。設問を増やすよりも、教員が説明を工夫すれば、現行形式でも拾えるのではないか。

松本委員

なんのアプリかわかるとよいと思う。

事務局

該当するアプリがないと子どもがかかない可能性があるため書かないようにした。

新井会長

アンケートの目的は「いじめを拾い上げること」です。形式を維持しつつ、子どもが理解しやすい説明や実施方法の工夫が重要だと思います。

仲野委員

ネットと実際のケースがつながりにくい。ネットのアンケートと実際のアンケートを分けてやるか。

林委員

ネット上で会ったことのない友達がどれぐらいいるかが気になる。

(※改定案は事務局で再検討し、改めて共有することを確認)

閉会

新井会長

SNS の危険性、アンケートの在り方、地域の関わりなど、多くの重要な意見が出ました。本日の議論を今後に生かしていきたいと思います。

事務局

本日をもって今年度の審議会は終了となります。次年度の日程は改めてご連絡します。本日はありがとうございました。

令和8年 5 月 15 日

署名委員 田中 駿子

署名委員 高城 裕佳子